

中国政治 I

【レポート課題】

▶ 課題

改革開放期における中国の政治体制改革には限界があった。それはどのような理由によるものか。限界をもたらした要因について、少なくとも1つ（複数でも可）を具体的に指摘し、それがどのような政治構造に起因するかを説明し、どのような結果をもたらしたのかを述べよ。

※複数の講義内容にまたがる説明を踏まえて自分で考察すること。

※資料を引用した場合には、必ず脚注などで出典を明記すること。

※図表やグラフなどは自分で作成した場合のみ掲載して良い。

▶ 字数：2000～6000字（脚注、参考文献を含む。）

▶ 提出方法：WebClass に設定、PDF 形式または Word 形式で提出

▶ 提出期間：7月14日（水）授業後～7月26日（月）10:00

【レポート解説】

▶ 基本的な要点

- ①政治体制改革に限界がある理由、その政治構造的背景、政治体制改革の結果、の3つの点から回答がされている。
- ②複数の講義内容を踏まえていることが確認される。
- ③形式、字数などが指定されたとおりになっている。
- ④論理的に説得力をもって説明されている。（加点要因）

▶ 解答のポイント例

※ここに挙げた例以外でも論理性が認められれば加点する。

- ① 一党独裁体制（党国体制）の必要性、リベラルな指導層と権力闘争
→ 共産党の独裁を維持するため、権力闘争とリンクした圧力がかった。
- ② 体制外からの民主化運動の限界、既得権益層の存在
→ 経済改革の主体は党であり、自らの権力基盤を崩せなかった。
- ③ 経済発展を優先する理論、強いリーダーシップの必要性（新権威主義）
→ 社会主義初級段階論と位置づけ、政治体制改革を先延ばしにした。